

# JRC2022 画像部会参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは。華岡青洲記念病院の山口です。もう 4 月となり春を迎えているはずなのですが、年齢のせいなのか通勤時の寒さでなかなか衣替えが進みません。桜が咲けば変わるかな？

2022 年 4 月 15 日から 17 日まで開催された第 78 回日本放射線技術学会総会学術大会に参加してきました。桜の季節も終わり暖かさを感じられるはずだったのですが、会期中はなぜか気温が低く北海道と同様に寒さを感じる学会期間でした。去年は、リモート発表も多く会場に参加してもリモートで参加しても同じかなと感じましたが、今年はリモート発表もわずかで、本来の学会の雰囲気を感じられました。私は初日の 1 番はじめのセッションで座長を担当しましたが、やはり発表者が目の前にいてディスカッションするのは、意図が通じやすく深く掘り下げた会話ができるのでいいですね。

今回の報告は、現在改訂作業中の「X 線 CT 撮影における標準化」いわゆる GALACTIC に関してです。撮影部会の企画として、この改訂作業の中間報告が行われました。今回の改訂でも私が循環器に関して担当させて頂いており、他の北海道メンバーでは、勤医協中央病院の船山さんが頭部・頭頸部領域を担当されています。

私の方からは、今年の 3 月にアップデートされました日本循環器学会のガイドラインの内容や海外のガイドラインを踏まえた改訂作業中の内容に関して解説しました。特に全世界的な流れとして、冠動脈 CT が虚血性心疾患や胸痛に対する検査のファーストラインとして位置付けされましたので、これまで以上に冠動脈 CT の画像クオリティ向上が求められる事になります。日本のガイドラインでも不十分な心拍コントロールに対して警告するような一文も示されており、キヤノンメディカルシステムズの CT で冠動脈を撮影されている皆様と、さらに密に情報共有していけたらと思います。ま

た、今回の改訂で新しく記述される項目の1つとして逐次近似応用画像再構成法があります。可能なかぎり具体的な使用の目安を提示することを目標に議論されている所です。特に循環器領域における血管描出を目的としたCTAでは、逐次近似応用画像再構成法と低管電圧の併用により、50%程度までの線量低減が可能であるとの報告が多くあるため、これらを参考にして改訂作業を行なって行きたいと思っております。

今回は、循環器に加えて頭部・頭頸部領域、腹部領域、救急領域からの報告がありました。そのほかの領域や appendix なども充実した内容になると思います。CT撮影をされている皆様のお役に立てる書籍となるように頑張りますので、応援宜しくお願いします。

横浜のみなとみらいは、常に進化しているようです。桜木町からみなとみらいを結ぶおしゃれなゴンドラや、パシフィコ横浜と赤レンガの間にはハンマーヘッドと呼ばれる新しい商業施設が出来ていました。私たちもポストコロナに向けてさらに進化していきましょう！！

